

# ファームウェア管理

- Cisco UCS S3260 システムのファームウェア管理、1 ページ
- シャーシプロファイルのシャーシファームウェアパッケージによるファームウェアのアップグレード,3ページ
- S3260 シャーシ とサーバ エンドポイントの直接のファームウェア アップグレード, 10 ページ

# Cisco UCS S3260 システムのファームウェア管理

Cisco UCSでは、シスコから取得し、シスコによって認定されたファームウェアを使用して、Cisco UCSドメインのエンドポイントをサポートします。各エンドポイントは、機能するためにファームウェアが必要な Cisco UCSドメインのコンポーネントです。

『』『Cisco UCS Manager Firmware Management Guide, Release 3.2』には、完全なファームウェア管理プロセスの詳細情報が記載されています。さらに、Cisco UCS Manager リリース 3.1(2) 以降では、シャーシのファームウェア ポリシーを定義し、Cisco UCS S3260 シャーシ に関連付けられたシャーシ プロファイルに格納することで、Cisco UCS S3260 シャーシ コンポーネントのファームウェアをアップグレードできます。

Cisco UCS Manager を通じて S3260 シャーシ とサーバを含む Cisco UCS ドメインを次のようにアップグレードできます。

- 自動インストール によるインフラストラクチャ コンポーネントのアップグレード:自動インストール を使用することで1つの手順で Cisco UCS Manager ソフトウェアおよびファブリック インターコネクトなどのインフラストラクチャ コンポーネントをアップグレードできます。『』『Cisco UCS Manager Firmware Management Guide, Release 3.2』には、自動インストール プロセスの詳細情報が記載されています。
- シャーシプロファイルのシャーシファームウェアパッケージを介したシャーシのアップグレード:このオプションにより、1つの手順ですべてのシャーシエンドポイントをアップグレードできます。シャーシファームウェアパッケージを介してアップグレード可能なシャーシエンドポイントは次のとおりです。

- 。シャーシ アダプタ
- 。シャーシ管理コントローラ
- 。シャーシ ボード コントローラ
- 。ローカル ディスク



(注)

シャーシファームウェア パッケージを介してシャーシのローカル ディスクを アップグレードできます。ホストファームウェア パッケージを介してサーバ のローカル ディスクをアップグレードします。

。SAS エクスパンダ

ホスト ファームウェア パッケージを介してのみストレージ コントローラをアップグレード することができます。

シャーシファームウェア パッケージを介したシャーシ コンポーネントのアップグレードは Cisco UCS S3260 シャーシ に固有です。

- サービスプロファイルのファームウェアパッケージを使用してサーバをアップグレード: このオプションを使用すると1回のステップですべてのサーバのエンドポイントをアップグレードできるため、サーバのリブートによる中断時間を短くすることができます。サービスプロファイルの更新の延期導入とこのオプションを組み合わせて、スケジュールされたメンテナンス時間中にサーバのリブートが行われるようにすることができます。ホストファームウェアパッケージを介してアップグレード可能なサーバエンドポイントは次のとおりです。
  - CIMC
  - o BIOS
  - 。ボードコントローラ
  - 。ストレージ コントローラ
  - 。ローカル ディスク

『』『Cisco UCS Manager Firmware Management Guide, Release 3.2』には、ホストのファームウェア パッケージを使用したサーバ エンドポイントのアップグレードに関する詳細情報が記載されています。

また、各インフラストラクチャ、シャーシとサーバエンドポイントでファームウェアを直接アップグレードすることもできます。このオプションにより、ファブリック インターコネクト、SAS エクスパンダ、CMC、シャーシアダプタ、ストレージ コントローラ、ボード コントローラを含む、多くのインフラストラクチャ、シャーシ、サーバエンドポイントを直接アップグレードできます。ただし、直接アップグレードは、ストレージ コントローラ、HBA ファームウェア、HBA オプション ROM、ローカル ディスクなど、すべてのエンドポイントで利用できるわけではありません。

この章では、Cisco UCS S3260 システム向けに新しく導入された次のファームウェア管理機能について説明します。

- シャーシプロファイルのシャーシファームウェアパッケージを介したファームウェアのアップグレード
- Cisco UCS S3260 シャーシ とサーバ エンドポイントでのファームウェアの直接のアップグレード

# シャーシ プロファイルのシャーシ ファームウェア パッケージによるファームウェアのアップグレード

Cisco UCS Manager リリース 3.1(2) では Cisco UCS S3260 シャーシ のシャーシ プロファイルと シャーシ ファームウェア パッケージのサポートが追加されています。シャーシ ファームウェア パッケージを定義し、シャーシに関連付けられたシャーシプロファイルに格納することで、Cisco UCS S3260 シャーシエンドポイントのファームウェアをアップグレードできます。シャーシ プロファイルに関連付けられたシャーシのファームウェアを手動でアップグレードすることはできません。



(注)

いずれかのシャーションポーネントが障害状態になると、シャーシプロファイルの関連付けは失敗します。シャーシプロファイルの関連付けを進める前に、シャーションポーネントをバックアップすることをお勧めします。シャーションポーネントをバックアップせずに関連付けを続行するには、関連付けの前にコンポーネントを除外します。

シャーシプロファイルでサーバのファームウェアをアップグレードすることはできません。サービスプロファイルでサーバのファームウェアをアップグレードします。

シャーシのサーバは、シャーシのアップグレードプロセスが開始する前に、自動的に電源が切断されます。

# シャーシ ファームウェア パッケージ

このポリシーでは、シャーシファームウェアパッケージ(シャーシファームウェアパック)を構成するファームウェアバージョンのセットを指定することができます。シャーシファームウェアパッケージには、次のサシャーシエンドポイントのファームウェアが含まれています。

- ・シャーシアダプタ
- シャーシ管理コントローラ
- ・シャーシ ボード コントローラ
- ローカル ディスク



(注)

[Local Disk] は、デフォルトでシャーシファームウェア パッケージから除外されます。

• SAS エクスパンダ



#### ヒント

同じシャーシファームウェアパッケージに複数のタイプのファームウェアを含めることができます。たとえば、1つのシャーシファームウェアパッケージに、異なる2つのアダプタのモデル用のボードコントローラファームウェアとシャーシアダプタファームウェアの両方を含めることができます。ただし、同じ種類、ベンダー、モデル番号に対しては1つのファームウェアバージョンしか使用できません。システムはエンドポイントで必要なファームウェアバージョンを認識し、それ以外のファームウェアバージョンは無視します。

また、新しいシャーシファームウェアパッケージを作成するとき、または既存のシャーシファームウェアパッケージを変更するときに、シャーシファームウェアパッケージから特定のコンポーネントのファームウェアを除外できます。たとえば、シャーシファームウェアパッケージによってボードコントローラファームウェアをアップグレードしない場合は、ファームウェアパッケージ コンポーネントのリストからボード コントローラファームウェアを除外できます。



#### 重要

各シャーシファームウェア パッケージは除外コンポーネントの1つのリストと関連付けられます。

シャーシファームウェア パッケージは、このポリシーが含まれるシャーシプロファイルに関連付けられたすべてのシャーシにプッシュされます。

このポリシーにより、同じポリシーを使用しているシャーシプロファイルに関連付けられているすべてのシャーシでシャーシファームウェアが同一となります。したがって、シャーシプロファイルをあるシャーシから別のシャーシに移動した場合でも、ファームウェアバージョンはそのまま変わりません。さらに、シャーシファームウェアパッケージのエンドポイントのファームウェアバージョンを変更した場合、その影響を受けるシャーシプロファイルすべてに新しいバージョンが即座に適用されます。

影響を受けるシャーシファームウェアパッケージに対し、このポリシーをシャーシプロファイルに含め、そのシャーシのプロファイルにシャーシを関連付けます。

このポリシーは他のどのポリシーにも依存していません。ファブリックインターコネクトに適切なファームウェアがダウンロードされていることを確認します。Cisco UCS Manager によりシャーシとシャーシプロファイルの関連付けが実行される際にファームウェアイメージが使用できない場合、Cisco UCS Manager はファームウェアのアップグレードを無視し、関連付けを完了します。

# シャーシ プロファイルのシャーシ ファームウェア パッケージを使用 したファームウェアのアップグレードのステージ

シャーシ プロファイルのシャーシ ファームウェア パッケージ ポリシーを使用して、シャーシファームウェアをアップグレードすることができます。



注意

エンドポイントを追加するか、既存のエンドポイントのファームウェア バージョンを変更することにより、シャーシファームウェア パッケージを修正すると、Cisco UCS Manager は [Pending Activities] をクリックして変更を確認した後で、エンドポイントをアップグレードします。このプロセスにより、シャーシ間のデータ トラフィックが中断されます。

#### 新しいシャーシ プロファイル

新しいシャーシプロファイルの場合、このアップグレードは次のステージで行われます。

#### シャーシ ファームウェア パッケージ ポリシーの作成

このステージでは、シャーシファームウェアパッケージを作成します。

#### シャーシ プロファイルの関連付け

このステージでは、シャーシプロファイルにシャーシファームウェアパッケージを含め、シャーシプロファイルとシャーシとの関連付けを形成します。システムによって、選択したファームウェアバージョンがエンドポイントにプッシュされます。ファームウェアパッケージで指定したバージョンがエンドポイントで確実に実行されるように、シャーシを再認識させる必要があります。

#### 既存のシャーシ プロファイル

シャーシに関連付けられたシャーシプロファイルの場合、[Pending Activities]をクリックして変更を確認した後で、Cisco UCS Manager がファームウェアをアップグレードします。

# シャーシ プロファイルのファームウェア パッケージに対するアップ デートの影響

シャーシプロファイルのシャーシファームウェアパッケージを使用してファームウェアをアップデートするには、パッケージ内のファームウェアをアップデートする必要があります。ファームウェアパッケージへの変更を保存した後の動作は、Cisco UCS ドメインの設定によって異なります。

次の表に、シャーシ プロファイルのファームウェア パッケージを使用するシャーシのアップグレードに対する最も一般的なオプションを示します。

シャーシ プロファイル	メンテナンス ポリ シー	アップグレード処理
シャーシのファーのファーのファーのファーシのファーのファーのファーの以上のロファーを対して、 1つのシャーション 1つのシャーではないが、1つのシャーではないが、1つのシャーではないが、1つのシャーをはいる。また、ロール・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・	ユーザ確認応答に関して設定済み	シャーシファームウェアパッケージをアップデートすると、次のようになります。  1 Cisco UCS によって、変更を確認するように要求され、シャーシのユーザ確認が必要であることが通知されます。  2 点滅している [Pending Activities] ボタンをクリックし、再認識するシャーシを選択し、新しいファームウェアを適用します。  3 Cisco UCS によって、このポリシーを含むシャーシプロファイルに関連付けられているすべてのシャーシが照合され、モデル番号とベンダーがポリシーのファームウェアバージョンと一致する場合は、Cisco UCSによりシャーシが再認識され、ファームウェアがアップデートされます。 シャーシを手動で再認識しても、Cisco UCSによってシャーシファームウェアパッケージが適用されたり、保留中のアクティビティがキャンセルされることはありません。[Pending Activities] ボタンを使用して、保留中のアクティビティを確認応答するか、またはキャンセルする必要があります。

# シャーシ ファームウェア パッケージの作成



ヒント

同じシャーシファームウェア パッケージに複数のタイプのファームウェアを含めることができます。たとえば、1つのシャーシファームウェア パッケージに、異なる2つのアダプタのモデル用のボードコントローラファームウェアとシャーシアダプタファームウェアの両方を含めることができます。ただし、同じ種類、ベンダー、モデル番号に対しては1つのファームウェア バージョンしか使用できません。システムはエンドポイントで必要なファームウェアバージョンを認識し、それ以外のファームウェアバージョンは無視します。

また、新しいシャーシファームウェアパッケージを作成するとき、または既存のシャーシファームウェアパッケージを変更するときに、シャーシファームウェアパッケージから特定のコンポーネントのファームウェアを除外できます。

#### はじめる前に

ファブリックインターコネクトに適切なファームウェアがダウンロードされていることを確認します。

#### 手順

- ステップ1 [Navigation] ペインで [Chassis] タブをクリックします。
- ステップ**2** [Chassis] > [Policies] の順に展開します。
- ステップ3 ポリシーを作成する組織のノードを展開します。 システムにマルチテナント機能が備えられていない場合は、[root] ノードを展開します。
- ステップ 4 [Chassis Firmware Packages] を右クリックして [Create Chassis Firmware Package] を選択します。
- ステップ**5** [Create Chassis Firmware Package] ダイアログボックスで、パッケージの一意の名前と説明を入力します。

この名前には、 $1 \sim 16$  文字の英数字を使用できます。 - (ハイフン)、\_ (アンダースコア)、: (コロン)、および.(ピリオド)は使用できますが、それ以外の特殊文字とスペースは使用できません。また、オブジェクトが保存された後にこの名前を変更することはできません。

ステップ 6 [Chassis Package] および [Service Pack] の各ドロップダウン リストから、ファームウェア パッケージを選択します。

[Service Pack] のイメージは、[Chassis Package] のイメージよりも優先されます。

ステップ7 [Excluded Components] 領域で、このシャーシファームウェア パッケージから除外するコンポーネントに対応するチェックボックスをオンにします。

コンポーネント チェックボックスを 1 つもオンにしない場合は、リスト内のすべてのコンポーネントがシャーシ ファームウェア パッケージに含まれます。

- (注) [Local Disk] は、デフォルトでシャーシファームウェア パックから除外されます。
- ステップ8 [OK] をクリックします。

#### 次の作業

ポリシーをシャーシ プロファイルまたはシャーシ プロファイル テンプレートに含めます

# シャーシ ファームウェア パッケージのアップデート

同じシャーシファームウェアパッケージに複数のタイプのファームウェアを含めることができます。たとえば、1つのシャーシファームウェアパッケージに、異なる2つのアダプタのモデル用のボードコントローラファームウェアとシャーシアダプタファームウェアの両方を含めることができます。ただし、同じ種類、ベンダー、モデル番号に対しては1つのファームウェアバージョンしか使用できません。システムはエンドポイントで必要なファームウェアバージョンを認識し、それ以外のファームウェアバージョンは無視します。

また、新しいシャーシファームウェアパッケージを作成するとき、または既存のシャーシファームウェアパッケージを変更するときに、シャーシファームウェアパッケージから特定のコンポーネントのファームウェアを除外できます。



**重要** 各シャーシファームウェア パッケージは除外コンポーネントの1つのリストと関連付けられます。

#### はじめる前に

ファブリックインターコネクトに適切なファームウェアがダウンロードされていることを確認します。

#### 手順

- ステップ1 [Navigation] ペインで [Chassis] タブをクリックします。
- ステップ**2** [Chassis] > [Policies] の順に展開します。
- **ステップ3** アップデートするポリシーを含む組織のノードを展開します。 システムにマルチテナント機能が備えられていない場合は、[root] ノードを展開します。
- ステップ4 [Chassis Firmware Packages] を展開し、アップデートするポリシーを選択します。
- ステップ5 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- **ステップ6** シャーシファームウェア パッケージのコンポーネントを変更するには、[Modify Package Versions] をクリックします。

[Modify Package Versions] ウィンドウが表示されます。

- ステップ7 シャーシ パッケージを変更するには、[Chassis Package] ドロップダウン リストから、シャーシ パッケージのバージョンを選択します。
- ステップ8 サービス パックを変更するには、[Service Pack] ドロップダウン リストから、サービス パックの バージョンを選択します。 サービス パックを削除するには、[<not set>] を選択します。
- ステップ 9 [Excluded Components] 領域で、このシャーシファームウェア パッケージから除外するコンポーネントに対応するチェックボックスをオンにします。 コンポーネント チェックボックスを1つもオンにしない場合は、リスト内のすべてのコンポーネントがシャーシファームウェア パッケージに含まれます。
  - (注) [Local Disk] は、デフォルトでシャーシファームウェア パックから除外されます。
- ステップ10 [OK] をクリックします。

# 既存のシャーシ プロファイルへのシャーシ ファームウェア パッケージの追加

シャーシプロファイルがシャーシに関連付けられると、Cisco UCS Manager は、ユーザの確認後に、新しいバージョンのシャーシのファームウェアを更新し、アクティブ化します。

#### 手順

- ステップ1 [Navigation] ペインで [Chassis] タブをクリックします。
- ステップ**2** [Chassis] > [Chassis Profiles] の順に展開します。
- **ステップ3** アップデートするシャーシプロファイルが含まれている組織のノードを展開します。 システムにマルチテナント機能が備えられていない場合は、[root] ノードを展開します。
- ステップ4 シャーシ ファームウェア パッケージを追加するシャーシ プロファイルをクリックします。
- ステップ5 [Work] ペインの [Policies] タブをクリックします。
- ステップ6 下矢印をクリックして、[Chassis Firmware Package] セクションを展開します。
- ステップ**7** シャーシファームウェア パッケージを追加するには、[Chassis Firmware Package] ドロップダウン リストから目的のポリシーを選択します。
- ステップ8 [Save Changes] をクリックします。

# Cisco UCS S3260 サーバを使用した UCS ドメインのアップグレード

#### はじめる前に

- すべてのサーバ ノードがシャットダウンされていることを確認します。
- シャーシファームウェアパッケージポリシーとシャーシメンテナンスポリシーを参照するシャーシポリシーが UCS ドメインに割り当てられていることを確認します。

- **ステップ1** 自動インストールによってインフラストラクチャファームウェアをアップグレードします。「自動インストールを使用したインフラストラクチャファームウェアのアップグレード」を参照してください。
- **ステップ2** シャーシファームウェアパッケージポリシーを更新します。
  - デフォルトのシャーシファームウェアパッケージポリシーを使用している場合は、新しいパッケージバージョンでデフォルトシャーシファームウェアパッケージポリシーを更新し

ます。シャーシファームウェアパッケージのアップデート, (7ページ) を参照してください。

新しいシャーシ パッケージ バージョンを使用して新しいシャーシ ファームウェア パッケージポリシーを作成し、既存または割り当て済みのシャーシプロファイル (すべての User Ackを許可)を設定します。新しいシャーシファームウェア パッケージポリシーの作成については、シャーシファームウェア パッケージの作成, (6ページ)を参照してください。

このプロセスには  $1 \sim 2$  時間かかることがあります。シャーシの [FSM] タブでステータスをモニタできます。

**ステップ3** ホストのファームウェアを更新します。「自動インストールによるサーバファームウェアのアップグレード」を参照してください。

# **\$3260** シャーシ とサーバ エンドポイントの直接のファームウェア アップグレード

ここでは、S3260 シャーシ とサーバ エンドポイントのアップグレードについて詳しく説明します。

#### S3260 シャーシェンドポイント

**S3260** シャーシ のファームウェアのアップグレードをトリガーするには、次の順に実行します。

- 1 CMC1ファームウェアの更新
- 2 CMC2ファームウェアの更新
- 3 シャーシアダプタ1ファームウェアの更新
- 4 シャーシアダプタ2ファームウェアの更新
- 5 SAS エクスパンダ 1 ファームウェアの更新
- 6 SAS エクスパンダ 2 ファームウェアの更新
- 7 SAS エクスパンダ 1 ファームウェアのアクティブ化
- **8** SAS エクスパンダ 2 ファームウェアのアクティブ化
- 9 CMC1ファームウェアのアクティブ化
- 10 CMC 2 ファームウェアのアクティブ化
- 11 シャーシアダプタ1ファームウェアのアクティブ化
- 12 シャーシアダプタ 2 ファームウェアのアクティブ化
- 13 シャーシボード コントローラのアクティブ化



(注)

シャーシのローカルディスクのファームウェアを手動で更新することはできません。ローカルディスクのファームウェアは、シャーシのファームウェアパッケージに明示的に含めた場合は更新されます。

#### Cisco UCS S3260 サーバノードエンドポイント

サーバエンドポイントのファームウェアのアップグレードをトリガーするには、次の順に実行します。

- 1 CIMC の更新
- 2 CIMC のアクティブ化
- 3 Update BIOS
- 4 BIOS のアクティブ化
- 5 ボードコントローラのアクティブ化
- 6 ストレージ コントローラのアクティブ化

ファームウェアのアップグレード中は、次の順に実行することを推奨します。

- 1 インフラストラクチャのアップグレード: Cisco UCS Manager ソフトウェアおよびファブリック インターコネクト
- 2 シャーシとサーバエンドポイントのアップグレード

ファームウェアのダウングレード中は、次の順に実行することを推奨します。

- 1 シャーシとサーバ エンドポイントのダウングレード
- 2 インフラストラクチャのダウングレード: Cisco UCS Manager ソフトウェアおよびファブリック インターコネクト

# シャーシェンドポイントのファームウェアの直接のアップグレード

## S3260 シャーシの CMC ファームウェアのアップデート



计音

更新が完了するまで、エンドポイントがあるハードウェアを取り外したり、メンテナンス作業を実行しないでください。ハードウェアが取り外されたり、その他のメンテナンス作業により使用できない場合、ファームウェアの更新は失敗します。この失敗により、バックアップパーティションが破損する場合があります。バックアップパーティションが破損しているエンドポイントではファームウェアを更新できません。

- ステップ1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ**2** [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] の順に展開します。
- **ステップ3** [Work] ペインの [Installed Firmware] タブをクリックして、[Chassis Management Controller] を選択し、[Update Firmware] をクリックします。
- ステップ4 [Update Firmware] ダイアログボックスで、次の操作を実行します。
  - a) [Version] ドロップダウンリストから、エンドポイントをアップデートするファームウェアバー ジョンを選択します。
  - b) [OK] をクリックします。 1つ以上のエンドポイントを直接更新できない場合、Cisco UCS Manager によって通知メッセージが表示されます。通知メッセージを確認した後、Cisco UCS Manager は、直接更新できるサーバ上の他のすべてのエンドポイントのファームウェアを更新します。

Cisco UCS Manager によって、選択されたファームウェア パッケージがバックアップ メモリ スロットにコピーされ、アクティブ化されるまでバックアップとして留まります。

ステップ5 (任意) [Update Status] 領域でアップデートのステータスをモニタします。 アップデート プロセスは数分かかることがあります。[Installed Firmware] タブの [Backup Version] フィールドに、選択したファームウェア パッケージが表示されるまで、ファームウェアをアクティブにしないでください。

#### 次の作業

ファームウェアをアクティブにします。

## **\$3260** シャーシ の シャーシ アダプタファームウェアのアップデート

両方のファブリックインターコネクトへのアダプタ接続がダウンした場合は、アップグレードはスキップされます。



注意 更新が完了するまで、エンドポイントがあるハードウェアを取り外したり、メンテナンス作業を実行しないでください。ハードウェアが取り外されたり、その他のメンテナンス作業により使用できない場合、ファームウェアの更新は失敗します。この失敗により、バックアップパーティションが破損する場合があります。バックアップパーティションが破損しているエンドポイントではファームウェアを更新できません。

ステップ1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] の順に展開します

ステップ3 [Installed Firmware] タブで [Chassis Adapter] を選択し、[Update Firmware] をクリックします。

ステップ4 [Update Firmware] ダイアログボックスで、次の操作を実行します。

- a) [Version] ドロップダウンリストから、エンドポイントをアップデートするファームウェアバー ジョンを選択します。
- b) [OK] をクリックします。 1つ以上のエンドポイントを直接更新できない場合、Cisco UCS Manager によって通知メッセージが表示されます。通知メッセージを確認した後、Cisco UCS Manager は、直接更新できるサーバ上の他のすべてのエンドポイントのファームウェアを更新します。

Cisco UCS Manager によって、選択されたファームウェア パッケージがバックアップ メモリ スロットにコピーされ、アクティブ化されるまでバックアップとして留まります。

ステップ5 (任意) [Update Status] 領域でアップデートのステータスをモニタします。 アップデート プロセスは数分かかることがあります。[Installed Firmware] タブの [Backup Version] フィールドに、選択したファームウェア パッケージが表示されるまで、ファームウェアをアクティブにしないでください。

#### 次の作業

ファームウェアをアクティブにします。

## \$3260 シャーシの \$A\$ エクスパンダのファームウェアのアップデート



注意

更新が完了するまで、エンドポイントがあるハードウェアを取り外したり、メンテナンス作業を実行しないでください。ハードウェアが取り外されたり、その他のメンテナンス作業により使用できない場合、ファームウェアの更新は失敗します。この失敗により、バックアップパーティションが破損する場合があります。バックアップパーティションが破損しているエンドポイントではファームウェアを更新できません。

- ステップ1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] の順に展開します
- ステップ**3** [Installed Firmware] タブで、更新する SAS エクスパンダを選択して [Update Firmware] をクリックします。
- ステップ4 [Update Firmware] ダイアログボックスで、次の操作を実行します。
  - a) [Version] ドロップダウンリストから、エンドポイントをアップデートするファームウェアバー ジョンを選択します。
  - b) [OK] をクリックします。 1つ以上のエンドポイントを直接更新できない場合、Cisco UCS Manager によって通知メッセージが表示されます。通知メッセージを確認した後、Cisco UCS Manager は、直接更新できるサーバ上の他のすべてのエンドポイントのファームウェアを更新します。

Cisco UCS Manager によって、選択されたファームウェア パッケージがバックアップ メモリ スロットにコピーされ、アクティブ化されるまでバックアップとして留まります。

ステップ5 (任意) [Update Status] 領域でアップデートのステータスをモニタします。 アップデート プロセスは数分かかることがあります。[Installed Firmware] タブの [Backup Version] フィールドに、選択したファームウェア パッケージが表示されるまで、ファームウェアをアクティブにしないでください。

#### 次の作業

ファームウェアをアクティブにします。

## S3260 シャーシの SAS エクスパンダ ファームウェアのアクティブ化

- ステップ1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] の順に展開します
- ステップ**3** [Installed Firmware] タブで、更新する SAS エクスパンダを選択して [Activate Firmware] をクリックします。
- ステップ4 [Activate Firmware] ダイアログボックスで、次の操作を実行します。
  - a) [Set Version] ドロップダウン リストから、該当するバージョンを選択します。 1つ以上の選択したエンドポイントがバックアップ バージョンとして必要なバージョンで設定されていない場合は、[Set Version] ドロップダウン リストにそのバージョンが表示されません。各エンドポイントについて、[Startup Version]カラムからバージョンを選択する必要があります。

b) [OK] をクリックします。

### \$3260 シャーシの CMC ファームウェアのアクティブ化

#### 手順

- ステップ1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ**2** [Equipment] > [Chassis] > [Chassis *Number*] の順に展開します
- **ステップ3** [Installed Firmware] タブで [Chassis Management Controller] を選択し、[Activate Firmware] をクリックします。
- **ステップ4** [Activate Firmware] ダイアログボックスで、次の操作を実行します。
  - a) [Set Version] ドロップダウン リストから、該当するバージョンを選択します。 1つ以上の選択したエンドポイントがバックアップ バージョンとして必要なバージョンで設定されていない場合は、[Set Version] ドロップダウン リストにそのバージョンが表示されません。各エンドポイントについて、[Startup Version]カラムからバージョンを選択する必要があります。
  - b) [OK] をクリックします。

## **\$3260** シャーシの シャーシアダプタ ファームウェアのアクティブ化

- ステップ1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] の順に展開します
- **ステップ3** [Installed Firmware] タブで [Chassis Adapter] を選択し、[Activate Firmware] をクリックします。
- ステップ4 [Activate Firmware] ダイアログボックスで、次の操作を実行します。
  - a) [Set Version] ドロップダウン リストから、該当するバージョンを選択します。 1つ以上の選択したエンドポイントがバックアップ バージョンとして必要なバージョンで設定されていない場合は、[Set Version] ドロップダウン リストにそのバージョンが表示されません。各エンドポイントについて、[Startup Version]カラムからバージョンを選択する必要があります。
  - b) [OK] をクリックします。

### \$3260 シャーシ のシャーシ ボード コントローラ ファームウェアのアクティブ化



(注)

Cisco UCS Manager は、以前のバージョンへのシャーシ ボード コントローラ ファームウェア のアクティブ化をサポートしません。

#### 手順

- ステップ1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] の順に展開します
- ステップ**3** [Installed Firmware] タブで [Board Controller] を選択し、[Activate Firmware] をクリックします。
- ステップ4 [Activate Firmware] ダイアログボックスで、次の操作を実行します。
  - a) [Set Version] ドロップダウン リストから、該当するバージョンを選択します。 1つ以上の選択したエンドポイントがバックアップ バージョンとして必要なバージョンで設定 されていない場合は、[Set Version] ドロップダウン リストにそのバージョンが表示されませ ん。各エンドポイントについて、[Startup Version] カラムからバージョンを選択する必要があり ます。
  - b) [OK] をクリックします。

# サーバ エンドポイントのファームウェアの直接のアップグレード

## Cisco UCS S3260 サーバノードの CIMC ファームウェアの更新



注意

更新が完了するまで、エンドポイントがあるハードウェアを取り外したり、メンテナンス作業を実行しないでください。ハードウェアが取り外されたり、その他のメンテナンス作業により使用できない場合、ファームウェアの更新は失敗します。この失敗により、バックアップパーティションが破損する場合があります。バックアップパーティションが破損しているエンドポイントではファームウェアを更新できません。

- ステップ1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
- ステップ3 CIMC をアップデートするサーバのノードを展開します。
- ステップ4 [Work] ペインの [Inventory] タブをクリックします。
- ステップ5 [CIMC] タブをクリックします。
- ステップ6 [Actions] 領域で [Update Firmware] をクリックします。
- ステップ7 [Update Firmware] ダイアログボックスで、次の操作を実行します。
  - a) [Version] ドロップダウンリストから、エンドポイントをアップデートするファームウェアバー ジョンを選択します。
  - b) [OK] をクリックします。

Cisco UCS Manager によって、選択されたファームウェア パッケージがバックアップ メモリ スロットにコピーされ、アクティブ化されるまでバックアップとして留まります。

ステップ8 (任意) [Update Status] 領域でアップデートのステータスをモニタします。 アップデート プロセスは数分かかることがあります。[General] タブの [Firmware] 領域の [Backup Version] フィールドに、選択したファームウェア パッケージが表示されるまで、ファームウェア をアクティブにしないでください。

#### 次の作業

ファームウェアをアクティブにします。

# Cisco UCS S3260 サーバノードの CIMC ファームウェアのアクティブ化

CIMC のファームウェアのアクティベーションによって、データ トラフィックは中断しません。 ただし、すべての KVM セッションに割り込み、サーバに接続しているすべての vMedia が切断されます。



注意

更新が完了するまで、エンドポイントがあるハードウェアを取り外したり、メンテナンス作業を実行しないでください。ハードウェアが取り外されたり、その他のメンテナンス作業により使用できない場合、ファームウェアの更新は失敗します。この失敗により、バックアップパーティションが破損する場合があります。バックアップパーティションが破損しているエンドポイントではファームウェアを更新できません。

- ステップ1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ**2** [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
- ステップ3 アップデートしたファームウェアをアクティブにする対象の Cisco Integrated Management Controller (CIMC) が搭載されているサーバのノードを展開します。
- ステップ4 [Work] ペインで [Inventory] タブをクリックします。
- ステップ5 [CIMC] タブをクリックします。
- ステップ6 [Actions] 領域の [Activate Firmware] をクリックします。
- **ステップ7** [Activate Firmware] ダイアログボックスで、次の操作を実行します。
  - a) [Version To Be Activated] ドロップダウン リストから、適切なバージョンを選択します。 1つ以上の選択したエンドポイントがバックアップ バージョンとして必要なバージョンで設定されていない場合は、[Set Version] ドロップダウン リストにそのバージョンが表示されません。各エンドポイントについて、[Startup Version]カラムからバージョンを選択する必要があります。
  - b) スタートアップバージョンを設定し、エンドポイントで実行しているバージョンを変更しない場合、[Set Startup Version Only] チェックボックスをオンにします。
    [Set Startup Version Only] を設定した場合は、アクティブ化されたファームウェアがpending-next-reboot 状態に移行して、エンドポイントがすぐにリブートしません。アクティブ化されたファームウェアは、エンドポイントがリブートするまで、実行中のファームウェアのバージョンになりません。
  - c) [OK] をクリックします。

### Cisco UCS S3260 サーバノードの BIOS ファームウェアの更新



注意 更新が完了するまで、エンドポイントがあるハードウェアを取り外したり、メンテナンス作業を実行しないでください。ハードウェアが取り外されたり、その他のメンテナンス作業により使用できない場合、ファームウェアの更新は失敗します。この失敗により、バックアップパーティションが破損する場合があります。バックアップパーティションが破損しているエンドポイントではファームウェアを更新できません。

- ステップ1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ**2** [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
- ステップ3 BIOS のファームウェアをアップデートするサーバのノードを展開します。
- ステップ4 [Work] ペインの [Inventory] タブをクリックします。
- **ステップ5** [Motherboard] タブをクリックします。
- ステップ 6 [Actions] 領域で [Update BIOS Firmware] をクリックします。
- ステップ7 [Update Firmware] ダイアログボックスで、次の操作を実行します。
  - a) [Version] ドロップダウン リストから、サーバの BIOS のアップデートの対象となるファームウェア バージョンを選択します。
  - b) (任意) 互換性のない可能性や、現在実行中のタスクに関係なく、ファームウェアをアップ デートする場合は、[Force] チェックボックスをオンにします。
  - c) [OK] をクリックします。

Cisco UCS Manager により、選択したサーバの BIOS ファームウェア パッケージがバックアップメモリ スロットにコピーされますが、明示的にアクティブ化されるまで、バックアップのままです。

アップデートが完了すると、[Motherboard] タブの [BIOS] 領域で、[Backup Version] の [Update Status] カラムに [Ready] と表示されます。

#### 次の作業

ファームウェアをアクティブにします。

## Cisco UCS S3260 サーバノードの BIOS ファームウェアのアクティブ化

- ステップ1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ**2** [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
- **ステップ3** アップデートした BIOS ファームウェアをアクティブ化するサーバのノードを展開します。
- ステップ4 [Work] ペインの [Inventory] タブをクリックします。
- ステップ5 [Motherboard] タブをクリックします。
- ステップ 6 [Actions] 領域で [Activate BIOS Firmware] をクリックします。
- ステップ7 [Activate Firmware] ダイアログボックスで、次の操作を実行します。
  - a) [Version To Be Activated] ドロップダウン リストから、適切なサーバ BIOS のバージョンを選択します。

- b) スタートアップ バージョンを設定し、サーバで実行しているバージョンを変更しない場合、 [Set Startup Version Only] チェックボックスをオンにします。 [Set Startup Version Only] を設定した場合は、アクティブ化されたファームウェアが pending-next-boot 状態に移行し、サーバはすぐにはリブートされません。アクティブ化された ファームウェアは、サーバがリブートされるまでは、実行されているバージョンのファーム ウェアへ変更されません。
- c) [OK] をクリックします。

## **Cisco UCS S3260** サーバノードのボード コントローラ ファームウェアのアクティブ 化



(注)

このアクティブ化手順を実行すると、サーバはリブートされます。サーバに関連付けられているサービスプロファイルにメンテナンスポリシーが含まれているかどうかに応じて、リブートはただちに行われることがあります。ボードコントローラファームウェアをアップグレードする際は、サーバ BIOS のアップグレードと同時に、(Cisco UCS ドメイン のアップグレードの最後の手順として)サービスプロファイル内のホストファームウェアパッケージから行うことをお勧めします。これによって、アップグレードプロセス中にサーバをリブートする回数を低減できます。

#### 手順

- ステップ1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ2 [Equipment] ノードをクリックします。
- ステップ3 [Work] ペインの [Firmware Management] タブをクリックします。
- ステップ**5** [Activate Firmware] ダイアログボックスのメニューバーにある [Filter] ドロップダウン リストから、[Board Controller] を選択します。
  Cisco UCS Manager GUI によって、[Activate Firmware] ダイアログボックスにボード コントローラ

を備えたすべてのサーバが表示されます。

- ステップ6 更新するボード コントローラに合わせて、[Startup Version] ドロップダウン リストからバージョンを選択します。
- ステップ7 [OK] をクリックします。
- ステップ**8** (任意) 異なるアーキテクチャの CPU にアップグレードする場合には、[Force Board Controller Activation] オプションを使用してファームウェア バージョンを更新することもできます。

# **Cisco UCS S3260** サーバノードのストレージコントローラファームウェアのアクティブ化

- ステップ1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
- ステップ3 アクティブ化するストレージ コントローラが存在するサーバを選択します。
- ステップ 4 [Installed Firmware] タブで [Storage Controller] を選択し、[Activate Firmware] をクリックします。
- **ステップ5** [Activate Firmware] ダイアログボックスで、次の操作を実行します。
  - a) [Set Version] ドロップダウン リストから、該当するバージョンを選択します。 1つ以上の選択したエンドポイントがバックアップ バージョンとして必要なバージョンで設定されていない場合は、[Set Version] ドロップダウン リストにそのバージョンが表示されません。各エンドポイントについて、[Startup Version]カラムからバージョンを選択する必要があります。
  - b) [OK] をクリックします。

サーバ エンドポイントのファームウェアの直接のアップグレード